

ネット トラブル ③

どう防ぐ?



子どもの

ネット上でさまざまな人とコミュニケーションができる通信アプリ、いわゆるソーシャルネットワークサービス(SNS)が人気だ。中でもその代表格「LINE」は国内で5000万人以上が利用という定番中の定番。10代の利用率は極めて高く、高校生はほぼ100%が使っている。

しかし、SNSは光と影の両面が。芸能人のトラブルにも「LINEの画面では…」と登場するし、愛知県刈谷市や兵庫県のように「小中学生のLINEを禁止」と明記した自治体も出てきた。

会話のように「秘密」「悪口」

SNSで人間関係崩壊?

道具である。しかし、小中学生の相手は毎日顔を合わせる友人。急用やスケジュール調整もないのに「秘密の話(特

悪口」などを書いてしまう傾向がある。どちらも人間関係を損なう心配のあるデリケートな話題だが、これを青少年特有の「思いつきの話し言葉」でポンポンと

その後日非難されるなど、送った方も大変だが、実は受けたほうも大変。微妙な問題であっても「即時に」「文字での」返信を求められるからである。返事を保留しようとしても、LINEの既読機能により、相手にはメッセージを読んだことはしっかり伝わる。こうやってSNSのトラブルは現実の人間関係をグチャグチャにしてい

このように、子ども達のSNSは送り手も受け手も、深刻な人トラブルに巻き込まれる危険性が非常に高い。残念ながらこれを完全に防ぐ方法はない。現状では「やらないう」というのが最善の方法である。



送る。実は子ども達のネット書き込みは大人のそれとは全く違い、会話のように短い単語を連発するのが基本。推敲という概念が無いので結果的に「余計なひと言」を書いてしまつことも多い。「Aちゃんってムカつくよね」「明日、無視しようよ」「Aちゃんと私とどっちの味方なの?」なども、さつと送ってしまう。それを別人に転送され